



むかわ けい

市政報告vol8
【令和5年第4号】

(表)市内各地の地域交通の「今」をご紹介
(裏)5月・6月の市議会の動き

Mail: kmukawa0126@gmail.com
TEL: 090-8042-5334
後援会事務所: 相武台2-24-6-102

ホームページ



相模原市の高齢化率

(人口総数に占める65歳以上の割合)
(出所) 住民基本台帳人口より

2013年	21%
2023年	26%
麻溝	24%
新磯	28%
相武台	35%

相模原市の高齢化は現在も進行中です。10年前は「5人に1人が65歳以上」でしたが、現在は「4人に1人が65歳以上」となりました。

旧市域(津久井・藤野・相模湖・城山を除く地区)のうち最も高齢化率が高いのは相武台で「3人に1人が65歳以上」です。

そうした中、神奈中バス便数は年々減ってきており、地域から「免許返納した後の生活が不安。買い物、病院、駅、公民館などにどうやっていけばよいのか。」との声が多数上がっています。

近い将来、多くの方が「移動困難」となってしまうまいや、相模原市でも各地区の実情を反映しながら、様々な地域交通手段が新たに模索されています。今回のレポートではそれらの「今」をご紹介します。

○大野北では、地域が主体となって導入に向けた検討がなされ、コミュニティバス運行のための条件が整ったことで、平成26年から実証運行、平成29年から本格運行されています。

○コミュニティバス運行の条件には

- ・神奈中バスの路線との重複を避ける
- ・1便の乗車人数が10人以上の利用需要が見込める
- ・運営経費の40%は利用者運賃で賄う(残りの60%は市の補助)

といったものがあります。

※相模原市「コミュニティバス導入の手引き」より



○これらの条件を満たすことが市内各地区にとって難しく、大沢・大野北地区以外では導入に至っていません。

○相模台地区のように7年近く市・神奈中との協議を粘り強く続けている地区もあります。

上矢部と淵野辺駅北口を結ぶ



グリーンスローモビリティ(新磯地区・城山地区)

○時速20km未満で公道を走る電動車を活用した地域交通サービスで、乗車定員は車両の型式にもよるが、7-8名など。

○コミュニティバスでも通れないような狭い路地も通行可能で、運営は地域住民のボランティアで実施するため、経費がコミュニティバスよりも掛からないことが特徴です。コミュニティバスの代替策として近年話題となっています。

○すでに宮崎県宮崎市、千葉県松戸市、兵庫県朝来市、岡山県笠岡市、福岡県北九州市など全国各地で導入が始まっています。

※グリーンスローモビリティ実証実験の様子→



○相模原市では城山地区(若葉台住宅)と新磯地区が実証モデル地区として選定されました。

○城山は今年6・7月にかけて実証運行を開始。

○新磯では6月に住民アンケート調査を済ませました。今後運行経路や運営体制の在り方を検討し秋頃に実証運行予定です。地域住民からは「運転手の継続的な確保が一番の課題」といった声も。

※福井県永平寺町は国の実証事業の公募に手を上げ、グリーンスローモビリティ車両に完全自動運転機能を持たせた車両運行を開始しています。



テスト走行使用車両
ヤマハ発動機社製 AR-07 (乗車定員7名)

関連ニュースはこちら→



福祉車両のシェアリング(光が丘地区)

○「光が丘地区地域ケア会議」(高齢者福祉事業・団体関係者などで構成)の事業として令和元年度から運行開始。

○運行経路は地域住民が策定。運転手はすべて地域に住むボランティアスタッフ(光が丘 買い物お助け隊)が担う。

○車両は社会福祉法人県央福祉会からの提供。

○70才以上の方が利用でき、約40名の方が利用者登録しています。

○会費は月300円。

○運行回数: 火・水・木の午前午後1回ずつ。

○麻溝まちづくり会議でも、コミュニティバスの代替策として同手法を検討中。



光が丘地区社協HPより



陽光台・青葉の住民を村富線沿いのスーパーまで運びます



協力: 社会福祉法人 県央福祉会

コミュニティバス(大沢地区・大野北地区)

4/30 市議会議員就任・会派決定

	各会派と構成人数	4月選挙では保守系無所属・自民党推薦として立候補した通り、保守本流の政治・政策を志向しています。
交渉会派	自由民主党相模原市議団 (14人)	よって会派は自由民主党相模原市議団を選択しました。
	民主みらい・無所属・地域政党さがみはら (9人)	
	公明党相模原市議団 (8人)	
	立憲民主党 (5人)	
非交渉会派	日本維新の会相模原市議団 (4人)	石橋湛山先生、田中角栄先生、野中広務先生など練達の政治家の歩みが自民党の歴史に刻まれています。烏合の衆でない質実剛健な会派の一員として、市議会で堅実に働きます。
	颯爽の会 (3人)	
	日本共産党相模原市議団 (2人)	
	無所属 (1人)	

5/10～5/17 議会運営協議会 (議会構成を決めるための協議)

議員就任して早速、議会で働かず！と意気込んでも、
 ・議会をいつ始めて、いつ終わらせるのか？
 ・議会の役職、各委員会の構成人数と構成員はどつするのか？
 などが決まっていなければ、議会も始めることができません。

各議員の役割分担を決めるため、5/10-5/17までは議員同士で (会派間で) の協議を行いました。

- 協議の結果、
- ・議会は5/18招集。(会期は来年3/19までの307日間)
 - ・所属委員会：建設委員会、基地対策特別委員会
 - ・その他役職：米軍基地返還促進協議会理事

建設委員会の調査事項

危機管理、都市計画、土地利用計画、総合交通対策、開発指導、建築行政、市営住宅整備、市街地整備、土地区画整理、駐車場対策、駅周辺整備、道路・下水道・河川整備、簡易水道事業、消防行政など

詳細はブログで→



5/18～6/6 市議会招集→補正予算審議

令和5年度6月補正予算(No.1)
47億円 (国から：41億、県から：3億、市自主財源：3億) などの審議をしました。主に以下の事業を実施するための予算です。

- 物価高騰対策**39億円**
 (高齢・障害者施設、市民税非課税世帯、児童福祉施設、中小運送事業者、農業者などへ)
- 保育園の登園管理システムデジタル化 **6億円**

これらの事業は6/6に議会採決されたので、7月頃から順次予算が交付されます。

- ・今回の補正予算で、市内の私立・公立保育園すべてに登園管理のデジタル化が導入されることに。
- ・スマホのアプリを通じて「登園打刻」、「保育者と保育士との連絡」、「保育記録の管理共有」ができるように。
- ・公立保育園は来年1月から。幼稚園にも同じタイミングで導入されます (こちらは県の事業です)。

- ・本年度も畜産農家に向け、飼料の価格高騰分の1/2を助成します。
- ・残りの1/2は県事業で今年も助成されます。
- ・今年度は県事業も相模原市事業と同様、「頭数」当たりで支援額が支給されます。このため交付申請も簡素になります。

6/6 各会派代表質問 (本会議)

当会派 (自民党) からは大槻和弘議員が代表質問に立ちました。代表質問における質問項目をいくつかピックアップします。
我が会派として重要視している市政トピックスです。

【自民党 代表質問 (主なもの)】

- ・電気自動車の普及
- ・観光資源の充実と新たな発掘
- ・特定自動運行
- ・原当麻踏切の立体交差事業
- ・休日一時保育の実施
- ・憲法改正
- ・令和5年度の財政運営
- ・学校教員の多忙化対策
- ・生成AIの活用
- ・市立図書館相武台分館の今後
- ・次期一般廃棄物最終処分場
- ・自主防災訓練の実施状況
- ・麻溝台新磯野第一整備地区土地区画整理事業の状況
- ・相模補給廠の全面返還及び返還4事案の実現に向けた取組

大槻議員と市長・市役所との質疑応答→



6/12 建設委員会

むかわけいの建設委員会質疑内容→

建設委員会所属議員として、以下議案などを審査・質疑・要望。

○EVトラック向けなど、200kW以上の大出力充電設備については、安全性に十分配慮しながらも、関東随一の物流拠点としての相模原市の将来像を見据え、物流センターと中心とした設置促進に向け、規制当局と産業政策当局が密に連携をとって取り組むこと。

○原当麻踏切立体工事について地元企業の受注機会確保に配慮されるよう工事者であるJR東日本とも十分協議すること。

○リニア新幹線「新神奈川駅」整備とともに観光やビジネスなどによる多くの来訪者を受け入れ可能とする大型ホテルを誘致すること。



務川 慧 委員 (自民党)

5月・6月 地元では

○財政難となっている大風の運営費をどう確保していくか。
 国 (観光庁・文化庁) の事業を活用できるかどうかの検証をしております。



○相武台下駅のエレベータ設置の条件が乗降者2000人/日に緩和されました。国・県・市の強固な連携体制を駆使しながら、JRに強く訴えかけていきます。



○建築基準法や都市開発条例を逸脱した開発・建造物への指導を市へ要請。
 近隣住民とのトラブルや事故を未然に防ぐ必要があります。



○6/3の豪雨で、当麻の「飄禄玉」前道路が崖崩れで通行止めとなりました。市は土嚢での応急処置を一先ず進め、道路復旧を目指しています。



地元課題の解決・改善に向けて私も尽力いたします。いつでもお声がけください。